

# 釧路新郷土芸術賞に輝く

受賞者の  
横顔

□中□

## 58年に高後賞を受賞

「先生やディスクリンユルの仲間、そして何よりも家族の支えがあった、これまでピアノの道を歩いて来られた」と受賞に感激の表情。白糠町で生まれ、小学

校入学前からピアノに親しみ、小・中・高校を通じて佐藤順子先生に師事した。また「小学校時代の担任の先生のオルガン演奏に感銘したことも覚えていいる」という。

北海道教育大学釧路校  
中学音楽科に入学し、荒谷宏教授に出会った。「人

との出会いが人生の転機や飛躍になるとするならば、荒谷先生との場合がそれ」とも語る。

大学四年にディスクリンピアノの准会員に、卒業と同時に会員となる。昭和五十八年には

### 音楽(ピアノ)

笠原茂子さん(四〇)

(白糠町西一南四)



ブラームスの渋さが好き—と受賞を喜ぶ笠原さん

## 質の高い演奏を披露 積極的に外部と共演も

釧路音楽協会から、その年に一番すぐれた演奏活動をを行ったとして高後賞

年は末広誠氏指揮札幌交響楽団友オケストラとモーツァルト作曲ピアノ協奏曲二番八長調K四六七を、さらにホルンの夕べでプロの演奏家とMOOコンサートなど、常に質の高い演奏を披露している。

バス教授の枠にはめない指導法には大きな感銘を受け、不断の努力の糧としている。

ノサツプ音楽  
にも出演

演奏会ではビゼー、シューベルトにリストなど多くの作曲家の作品を演奏するが「ブラームスの持つ渋さが好き」という。またラクマニノフ、チャイコフスキーの作品も愛している。

三年前からは全国から音楽家が集まる、根室市でのノサツプ音楽セミナーに参加している。荒谷先生から「外に出て勉強した方が良い」といわれたのが参加の動機になった。「音楽的に大きな相違は感じなかった」と話すもタシュテファン・シー

痺身のため、病弱に受け取られがちだが「健康には絶対の自信がある」といい切る。それでも演奏会に向けては体調もベストの状態となるよう、いつもコンディショニングを心がけている。

が贈られた。六十三年には釧路交響楽団とハイドンのピアノ協奏曲二長調を、平成三

木崎征夫

